

**テーマ： 7月の百貨店販売は低調な結果に
～天候不順の影響もあり、7月は回復が足踏み～**

発表日：2014年8月1日（金）

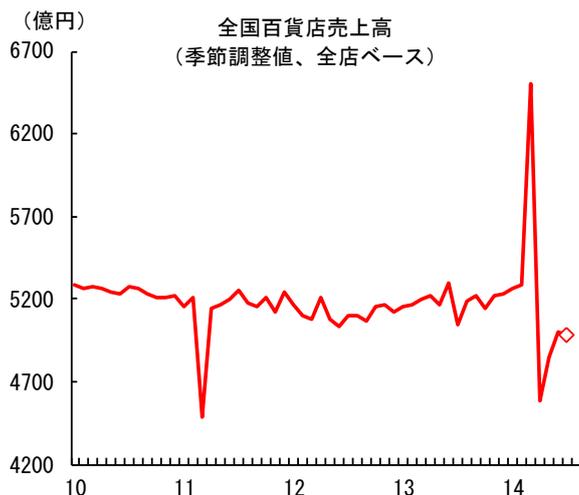
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

8月1日に、主要百貨店5社が7月の売上高（速報）を公表した。これを元にすると、7月の全国百貨店売上高（全店ベース）は前年比▲2.3%程度が予想される。6月の同▲5.5%から減少幅は縮小するとみられるが、これは昨年7月の売上が弱かったことの裏が出ている影響が大きい。昨年は、例年7月に行われるセールを6月に前倒したため、昨年6月の売上が高めに、逆に7月の売上が低めに出ている。そのため、前年比で見ると今年6月は弱く、7月は強く出やすい。それにも関わらず今年7月は前年比マイナスにとどまったとみられ、実態としては弱めとの評価が妥当だろう。

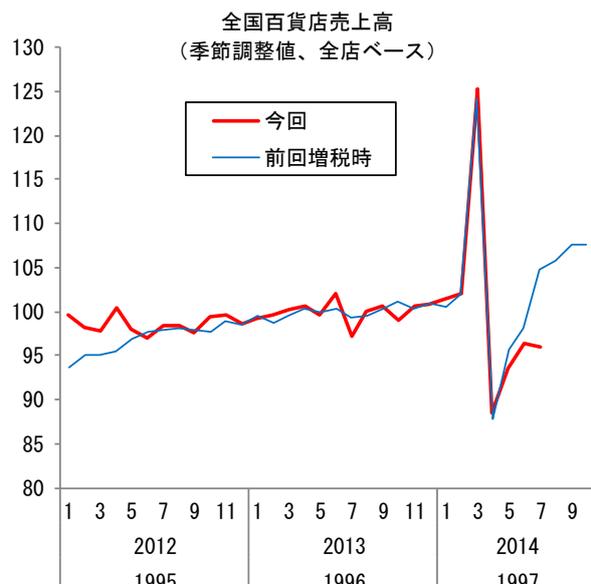
実際、季節調整済み前月比（筆者試算）では▲0.4%と微減である。4月に前月比▲29.5%と減少した後、5月に同+5.8%、6月に同+3.1%と着実に回復していたが、7月はいったん小休止する形になったとみられる。7月は月前半に雨が多かった影響で客足が鈍ったことが下押しになったようだが（天候が回復した月後半は持ち直した模様）、果たして天候不順要因だけで片付けてよいものかどうか。7月はボーナス支給後の売上増が期待されていただけに、（天候不順はあったにせよ）物足りない結果だろう。

なお、7月の水準（季節調整値）は4-6月期を3.5%Pt上回る見込みだ。7月は微減にとどまったが、5、6月の増加によるゲタ効果で、7-9月期の百貨店売上高は前期比プラスに転じるだろう。ただ、4-6月期の落ち込み（前期比▲15.3%）の後には戻りは物足りない印象。8月以降の回復に期待がかかる。

前回増税時と比較しても、7月は下振れが目立つ。6月までに関しては、3月の駆け込みの規模、4月の反動減の規模、5、6月の持ち直しペースともほぼ前回と同じだったが、7月については、前回増税時は回復が続いた一方、今回はほぼ横ばいにとどまり、前回対比弱い。先行きの消費回復シナリオに懸念を抱かせる結果と言えるだろう。8月が明確に持ち直し、7月の足踏みが天候不順による一時的なものだったと示せるかどうかが当面の焦点だ。



（出所）日本百貨店協会「全国百貨店売上高」
（注1）2014年7月は筆者による予測値
（注2）季節調整は筆者



（出所）日本百貨店協会「全国百貨店売上高」
（注1）季節調整は筆者
（注2）2013年平均、1996年平均をそれぞれ100として指数化
（注3）2014年7月は筆者による予測値